

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年10月31日

【評価実施概要】

事業所番号	0170501571		
法人名	有限会社 アムケア		
事業所名	グループホーム まどべ		
所在地	札幌市厚別区厚別中央1条3丁目4-16		
評価機関名	株式会社 社会教育総合研究所		
所在地	札幌市中央区南3条東2丁目1		
訪問調査日	平成19年10月31日	評価確定日	平成19年11月14日

【情報提供票より】 (平成19年10月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成)14年6月1日
ユニット数	1 ユニット 利用定員数計 9 人
職員数	8 人 常勤 6 人, 非常勤 2 人, 常勤換算 7, 2 人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り
	2階建ての 1.2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	58,000、60,000 円	その他の経費(月額)	水道光熱費 15,000 円 暖房費: 5,000円(11~3月)	
敷金	有(室料の2ヶ月分)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	450 円	昼食	450 円
	夕食	450 円	おやつ	150 円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(10月1日現在)

利用者人数	9 名	男性	2 名	女性	7 名
要介護1	1 名	要介護2	3 名		
要介護3	2 名	要介護4	3 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 84,8 歳	最低	71 歳	最高	99 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	たけい内科クリニック、札幌こぶしクリニック、ひばりが丘病院
---------	-------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホームまどべは、地下鉄駅から徒歩で1分の静かな住宅街に位置し、近隣には公園があり、日常的に買い物や外食にも出かけられる恵まれた立地にある。ホームの周りには石灯籠と花畑、紅葉した樹木があり季節の変化を感じさせている。法人代表者でもある管理者は、認知症になった高齢者が重度化しても、地域の中で家族と関わりを持ちながら安心して人生の終末を迎えられる介護を目指し、開設時から一貫して取り組んできている。日常のケアにおいては、地域の人々との交流を大切に、利用者が自分らしく伸び伸びと過ごせるように、笑顔を絶やさず自然な形で支えている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の外部評価で指摘された、刃物の管理は注意の必要な物を鍵の付いた保管場所に収めている。金銭管理については、金銭明細書のコピーと領収書を毎月郵送し、家族から確認が得られており、いずれも改善されている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取組み状況(関連項目:外部4)
	地域密着型に基づく自己評価、外部評価の意義を理解し、各職員が自己評価表に記載したものを管理者がまとめ、全員で確認している。職員は詳細な評価内容をケアへの気づきとし、具体的に直す契機と捉えている。管理者と職員は一体となり、改善すべき点については積極的に取り組まれている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議では、ホームの実情などを説明・報告し、参加者の助言や意見は謙虚に受け止め、運営に反映させている。次回の会議では自己評価及び外部評価の結果をテーマとして取り上げる予定である。管理者は、平成18年度の札幌市及び厚別区の認知症グループホーム連絡会の代表の重責を担い、また、北海道認知症グループホーム連絡会理事の役職もされており、(市)(区)関係者や担当者と共に連携をとり、幅広くサービスの向上に取り組まれている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	管理者は職員の誰もが家族に対応出来るように指導し、来訪時に意見・苦情を言いやすいように配慮している。毎月、「まどべの便り」を発行し、各利用者の暮らしぶりを詳細に伝え、手に取るように分かると家族に喜ばれている。意見箱は設置しているが、利用はされたことはない。過去に1度、苦情があり、書面で取り上げ全員で話し合い、迅速に対応されて解決している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目④	町内会に加入しており、ゴミ置き場当番やゴミ拾い、古紙回収などを手伝っている。町内会のお祭りなどの行事や小学校のすず虫交流会などに参加したり、中学生のボランティア活動の受け入れ、保育園児との交流も頻繁に行なわれている。玄関前にベンチが用意されており、近隣の人が一服したり、日光浴の利用者と挨拶を交わすなど、日常的な交流がある。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設当時から、地域とのふれあいを大切にし、そのひとらしい暮らしを支援する、わかりやすい独自の理念を作っているが、地域住民との関係性が明記されていない。	○	地域住民とふれあう暮らしが日々、行なわれているので、理念の中に、地域住民との関係性を加えることに、期待したい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	手作りの額に入った理念は、見易い所に掲げている。管理者は、申し送りやカンファレンスの機会に、理念の大切さを説明し、職員との共有化を図っており、職員も理念をよく理解し、日々のケアに取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入している。ゴミ置き場当番やゴミ拾い、古紙回収などを手伝い、町内会の行事にも参加している。玄関前にベンチが用意されており、地域の人が一服したり、日光浴の利用者と挨拶を交わすなど、日常的な交流がある。また、近隣の小学校、中学校、保育園児との交流も頻繁に行なわれている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者が地域密着型の自己評価、外部評価の意義を説明し、各職員が自己評価表に記載した。管理者がまとめた内容を全員で確認している。職員は詳細な評価内容から、ケアへの気づきになり、具体的に見直す契機となっている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、ホームの行事や町内会の活動に参加している内容などを報告し、会議での助言・意見などはケアに反映させている。今まで、自己評価、外部評価の結果について報告する機会がなかったので今回は取り上げようと考えている。	○	次回の運営推進会議で、自己評価、及び外部評価の結果をテーマとして取り上げる予定、とのことなので、そこでの意見を活かす取り組みを期待したい。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	平成18年度に、管理者は、札幌市及び厚別区の認知症グループホーム連絡会の代表をされていたので、市・区の担当者と常に連携がある。また、北海道認知症グループホーム連絡会理事の役職もあり、幅広くサービスの質の向上に取り組まれている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	毎月、「まどべの便り」を発行している。利用者の「記憶に残したい1日の暮らしぶり」を、管理者、職員などの立場から手書きで報告しているが、手に取るように分かる等、家族に喜ばれている。また、金銭明細書のコピーと領収書を毎月郵送している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱は設置しているが、利用はされたことはない。過去に1度、苦情もあったが、書面で取り上げ、全員で話し合い、迅速に対応した。管理者は職員の誰もが家族に対応が出来るように指導し、電話や来訪時に、意見や苦情を言いやすいように配慮している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	同法人で、新しい事業の開設時に、異動する職員もいたが、運営者は、主力の馴染みの職員を異動させず、利用者の精神的な安定を優先した。また、法人代表でもある管理者は、新しい事業所へ出かけることも多く、新たにホーム長の役職を配置し、安定した体制で支援できるように配慮している。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者は、職員の採用時に、会社内で1日研修を行ない、職員の認知症対応への質を高めるために、実践者研修、実践リーダー研修、スタッフ研修などの参加を積極的に進めている。運営者は、年間研修計画を作成しているが、さらに、段階に応じた個別の研修計画を考えているところである。	○	運営者は、事業の運営にとって、人材育成は欠かせないと熱心に取り組まれているので、各職員の段階に応じての研修体制を構築することに期待したい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	厚別区の認知症管理者連絡会では、各事業所職員の研修計画をたて、同業者間で職員の研修受け入れを実施している。当ホームでは、職員を業務扱いで参加させており、また、合同勉強会では、対応についての事例検討を発表する予定で、全職員で準備を進めている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居する前に、事前体験の目的で、皆と一緒に1日を過ごし、数日間の繰り返しから、安心して入居した利用者もいる。個人の生活を大切に、家族とも相談しながら安心して生活が始められるように工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は日々、利用者に教わるが多いと受け止めている。野菜の切り方、赤飯の作り方、煮付けなどの料理を教わり、畑作り、野菜の育て方、庭の冬囲いなどの方法に関心を寄せて、共に過ごす中で個人の得意とする面を引き出すように関わっている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は日々の関りの中で、利用者に寄り添い、会話や表情から思いを汲み取るように努力している。本人がどうしたいのか、カンファレンスで話し合い、利用者の意向を把握し介護計画に反映させている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画は、「センター方式」シートを使って家族から情報をもらい、アセスメント・課題の優先順位を職員カンファレンスで話し合う。作成には、担当を決めて全職員が関り、アドバイスや最終チェックを介護支援専門員である計画作成担当者が行い、家族へ説明して同意を得ている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	利用者一人ひとりの介護日誌および介護記録は詳細に記載されている。計画の定期的な見直しは3ヶ月毎に行われ、変化が生じた時の計画変更は把握した時点で見直し、再作成後は家族へ伝えて同意を得ている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者へのサービスとしては、送迎・病医院の受診介助・理美容院の付き添いを行っている。また、利用者の複数の家族が面会で集合する拠点にもなっているとのこと。地域からは認知症相談の電話が入り、対応している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診に際しては、利用者・家族の希望通りのかかりつけ医への受診を最優先させている。家族の受診同伴は稀であり、大半は職員が介助していて、受診結果はすぐ家族へ伝えられている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合の対応については、入居時に利用者・家族と指針を取り交わしている。同時に、緊急時に依頼する病院についても希望を確認している。	○	事業所としては、「看取りのケア」へ取り組む方針を立てており、現在は詰めの部分としての職員の教育方法を検討中とのことなので、教育計画の早期の実施に期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	全職員は利用者の誇りやプライバシーを損ねないように目配りや気配りをして、利用者の行動にさりげなく対応するように心がけている。介護記録類に使用する「言葉」も注意している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	事業所では「利用者のペースに合わせた暮らしの支援」に力を入れ、職員が寄り添って共に生活している環境をつくり上げている。利用者の言動は自由であり、表情も生き生きとしていて、大切にされている様子が見えがえる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の食事に係わる一連の作業は、出来ることを自然な姿で職員と共にやっている。食卓テーブルは3個あり、普通の家庭に多人数の身内が集まって、思い思いに楽しみながら食卓を囲んでいるという様子である。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は基本的には午後からで、入浴を好まない利用者には、少なくとも週2回は入ってもらうように支援している。「女の後には入りたくない」などと、自己主張する人には個別対応している。異性の介助も、人間関係が形成されると嫌がることは無いとのこと。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	職員は利用者の生活歴や家族から情報収集をし、本人へ働きかけながら希望に沿って共に楽しみごとを作り出している。園芸・貼り絵や、カラオケ・喫茶店へ出かけたり、野球選手だった利用者のキャッチボールの相手等、誠実に支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	外出の支援は日常的に、当たり前に行われている。利用者の外出パターンも把握されており、職員の連携は上手く行われている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵を掛けないケアを実践している。事業所の取り決めで、利用者が無断で一人で出かけた場合に「一時間で見つからない時は警察に届け出る」ことにしている。挨拶を兼ねて、交番に顔出しをしているとのこと。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の立会いで、年1回の避難訓練を実施している。避難場所を決めていて、訓練には近所の人々の参加もある。	○	夜間の勤務職員は一人であるため、夜間想定 の訓練を「運営推進会議」に諮りながら、周辺地 域の協力を得られる方法で具体的に計画される ように期待したい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理者の人脈から、ボランティアの栄養士、区の保健師、シェフなどの支えで、利用者一人ひとりの栄養バランスや食習慣、好みのメニューを取り入れており、飲み物も好きなものを飲めるように工夫している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間にはバリアフリーの畳のスペースがあり、落ち着いた雰囲気である。不快な音や臭いは無く、居間には太陽光が明るく差し込み、ホームの周囲は石灯籠と花畑、紅葉した木で季節感を充分感じさせている。ソファも2カ所に置かれ、利用者は自由に生活している様子である。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過ごせる ような工夫をしている	居室には、利用者・家族が希望する馴染みの物が置かれ、本人が作成した「カレンダー・貼り絵・毛筆文・写真」などが飾ってある。仏壇もあり、本人の想いが伝わる部屋作りになっている。出張で来札した息子が、利用者の居室で一緒に寝る事もある。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。